



自室内の安全チェックをしよう！



東京消防庁では、2003年から2008年の5年間、大きな地震による負傷原因の、実に30%~50%が家具類の転倒・落下によるものという調査結果を公表しています。命を守るだけでなくケガをしないためにも、自室の家具類の転倒や落下、移動を防止するための対策が大切です。



一瞬で凶器に？ 家具に潜む危険性

大地震が発生した時、転倒した家具の下敷きになったり、避難の邪魔になったのでは元も子もありません。便利な家具が一瞬で凶器にもなるわけです。部屋の出入口や通路には、大型の家具を置かないようにします。また、扉の開く方向などにも注意してください。



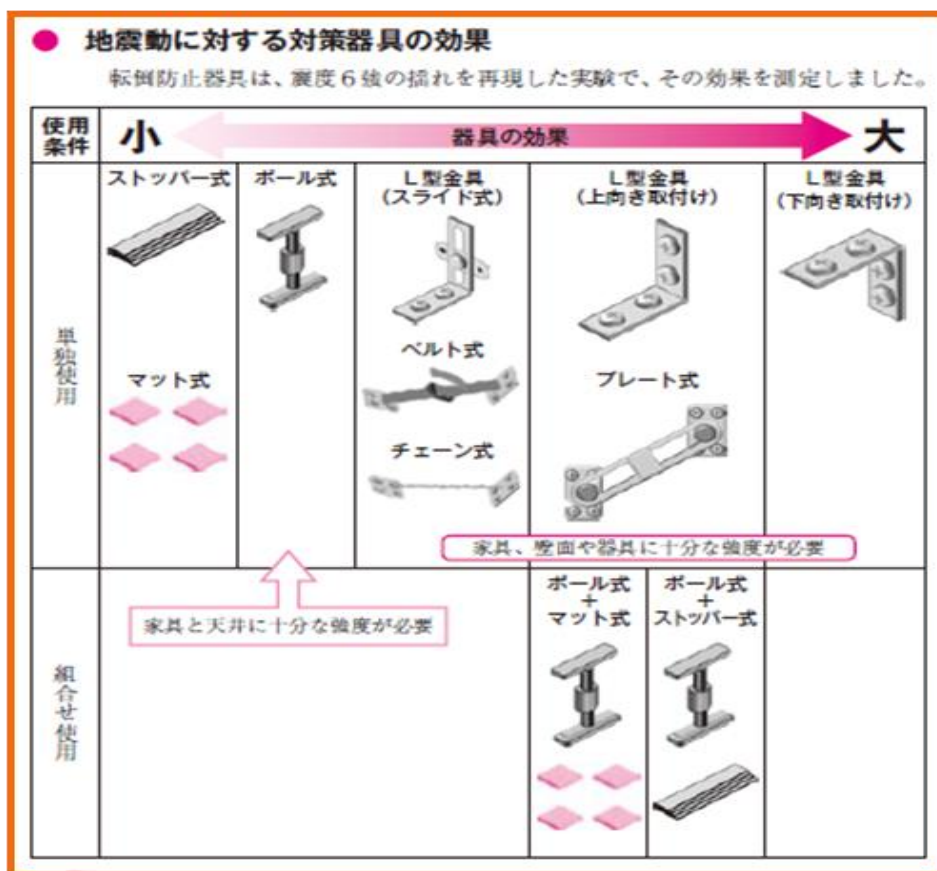
<ポイント>

- ・家具の上には物を置かず、重い物や割れやすいものは下へおろす。
- ・寝室には出来るだけ家具は配置しない。
- ・ベッドや布団のすぐそばに、スリッパや懐中電灯を用意する。
(懐中電灯には蓄光テープを巻いておくと見つけやすい。)

本当に大丈夫？

地震動への対策器具の効果

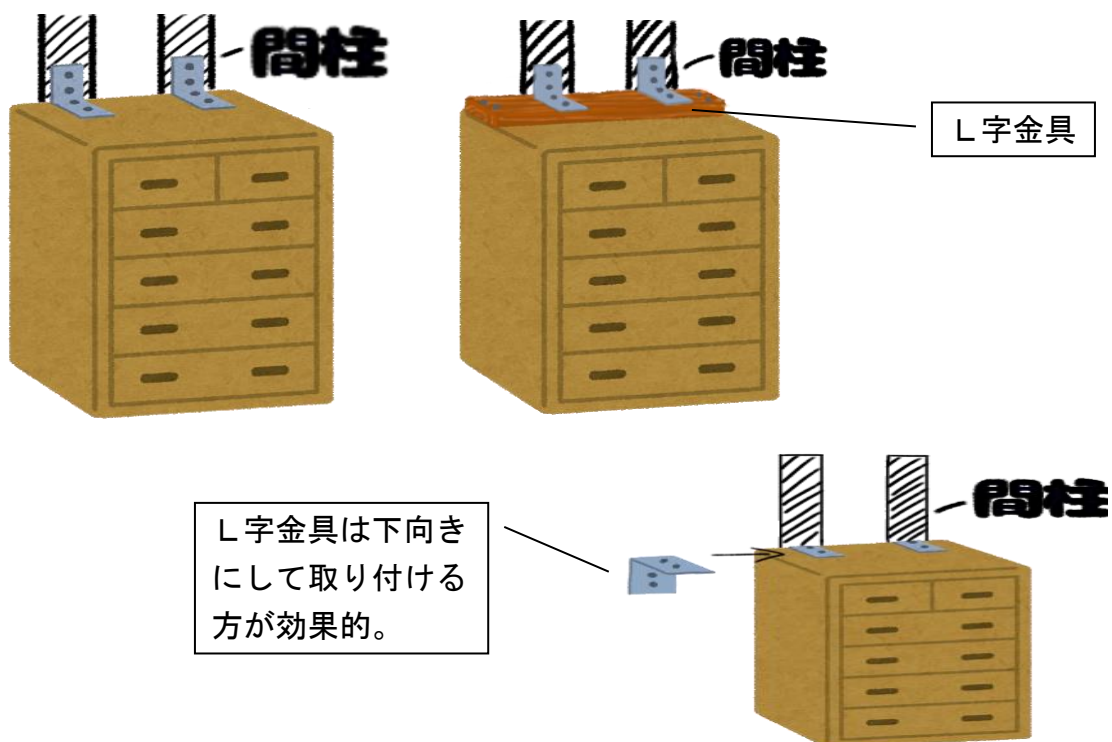
地震に対する自室内の安全を確保する時、どのような器具を使っても、完璧で万全ということはありません。しかし、家具を倒れにくくしたり、倒れてくるのを遅らせたりといった効果は見込まれます。それは過去の震災の検証や、各種の実験データからも明らかです。



どれが理想的？

強度ならL字金具

強度の面ではL字金具がお奨めですが、取付位置を慎重に特定する必要があります。マンションの場合、隣戸や廊下との戸境は耐力壁になっていて強度があります。この戸境壁にある下地材(間柱)に狙いを定めましょう。下地材の位置は探知用センサーやプッシュピンを使って調べます。

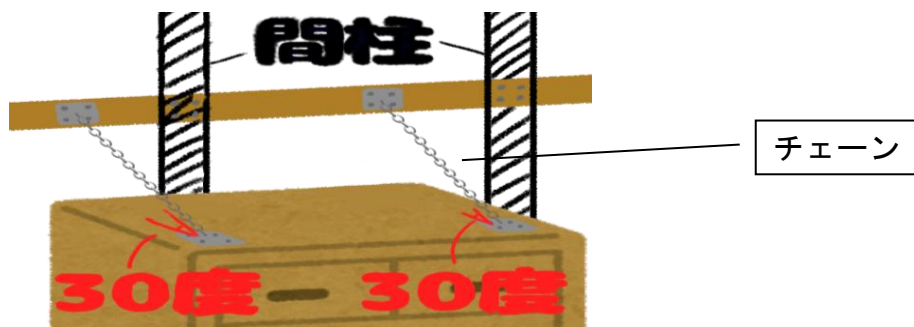


<ポイント>

- ・家具に強度がないと考えられる場合、家具の幅で板を渡し、しっかり固定してからL字金具を取り付ける。

L字金具が難しい？ チェーン式やベルト式で！

L字金具の取り付けが難しい場合は、チェーン式やベルト式金具を用います。たとえば、付け鴨居が石膏ボードへ接着剤で固定してある場合、付け鴨居から（壁の内側にある）間柱へ木ネジを通し、補強してからチェーンをかけます。天板とチェーンの角度は30度以内で、ピンと張るようにします。



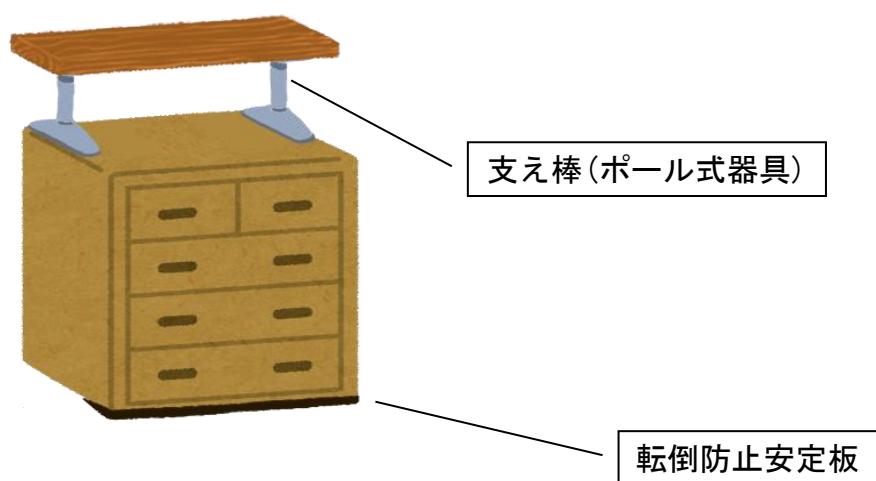
<ポイント>

- ・チェーンの角度は、家具の天板とは30度以内、家具を上から見たとき壁面と直角になるようにします。

穴がダメ？

2つの合わせ技で！

賃貸になっている部屋では、壁や天井に穴をあけるのが難しい場合があります。そのような時は、支え棒といわれるポール式器具と、転倒防止安定板などを「合わせ技」で使うようにします。この方法によれば、L字金具を用いるのと同程度の効果があるとされます。



<ポイント>

- ・支え棒(ポール式器具)は、固定する先の天井に強度が必要となる。このため天井と支え棒との間に、厚めの板をはさむようにすると良い。
- ・また、家具との位置関係は、天板の両端の奥側(壁側)へ、なるべく垂直になるように取り付ける。
 - ※ 天井と家具との間が広い場合や奥行きのない家具には効果が薄い！
- ・転倒防止安定板については、家具の前方下部へ、はさみ込むようにして取り付ける。市販されている専用器具のほか、粘着マットや新聞紙などでも代用することが可能。

より効果的な方法は？ 家具別の固定のポイント

前ページまで、大型家具を例にして、一般的な固定の方法について説明しました。しかし、家庭内には他に小型の家具もあれば、家電製品もたくさんあります。基本的な考え方は同じですが、大きさや形状が異なれば押さえどころも違ってきます。ここでは家具別に見ていきましょう。

◆冷蔵庫

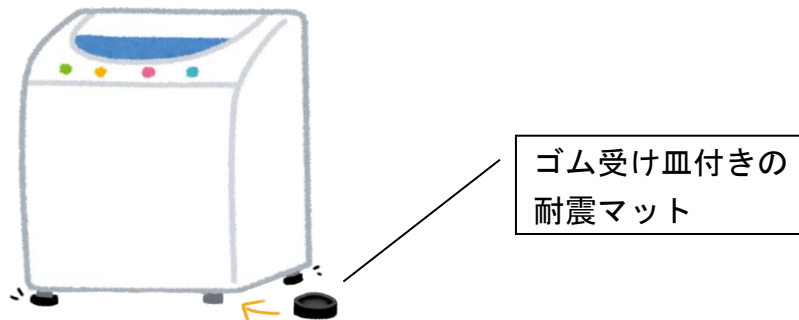
- ・壁面に大型ネジやボルトで固定するなら、棚などをL字金具で固定すると同様、壁には一定の強度が必要。この場合、下地材(間柱)を使う。
- ・脚部のキャスターは必ずロックしておく。
- ・できるだけ壁に寄せて置くようにする。また、ドアポケットばかりに重たいものを入れると重心が不安定になる。ドアポケットは軽くしておくこと。



このイラストでは、冷蔵庫転倒防止ベルトを使っている。これにはネジで止めるタイプと、壁に穴をあけない粘着タイプとがある。

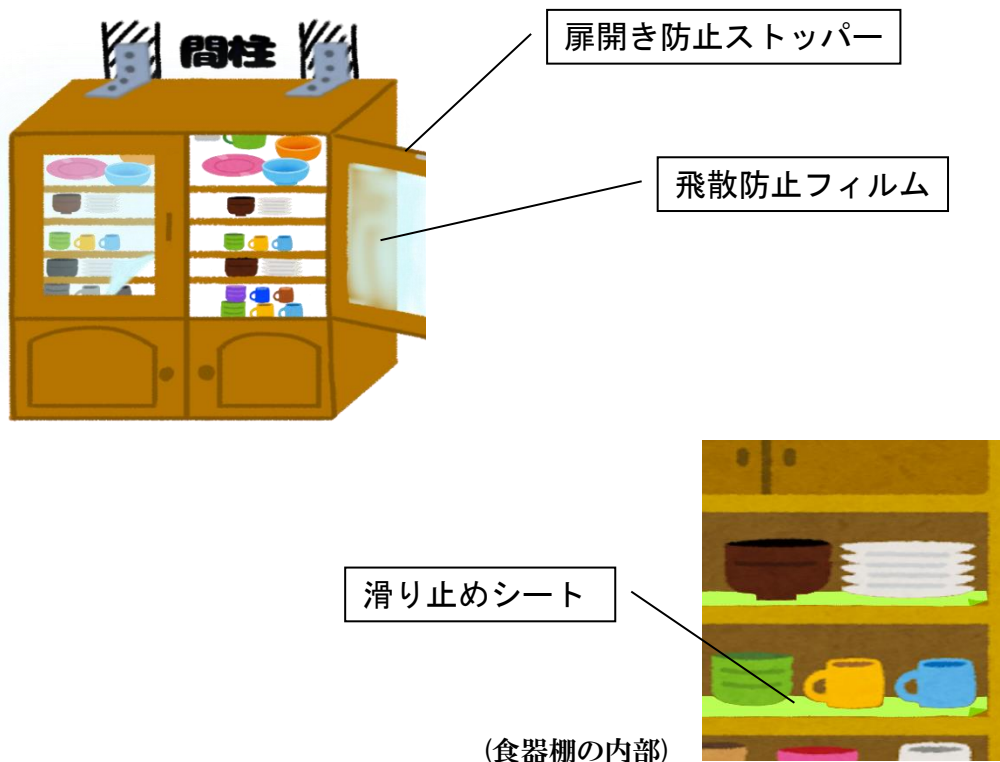
◆洗濯機

地震の際、いちばん多い洗濯機のトラブルは、取水口のホースが外れたり、棚上からモノが落ちて蛇口が壊れたりして水漏れを起こすこと。ふだんから洗濯機の使用後は、必ず蛇口を閉めるようにする。また、洗濯機の周辺に取り付けた簡易式棚には、重たいものは置かない。



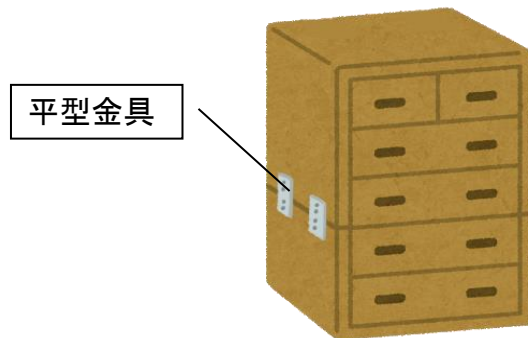
◆食器棚

食器棚の内部では、食器の下に滑り止めシートを敷き、棚板も奥に少し傾かせるようにする。外部については、ガラス戸には飛散防止フィルムを貼るほか、開き扉の場合はフックや扉開き防止ストッパーを付ける。



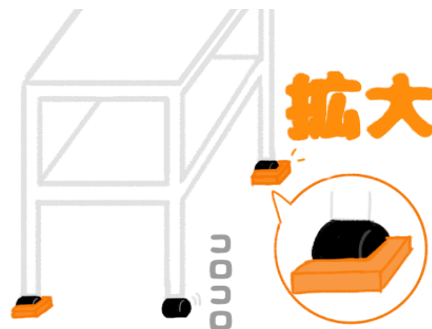
◆二段重ねの家具

平型金具などの連結用部品で、上下をしっかりとめる。



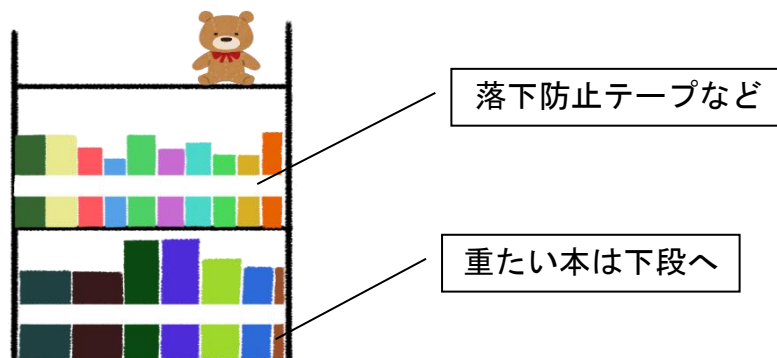
◆キャスター付き家具

ロック機能があれば、移動させるとき以外は常にロックをかけておく。ロック機能がなければ、キャスター固定用の受皿を置いたり、市販のキャスターホルダーを用いる。



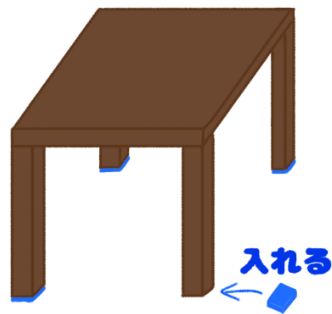
◆本棚

重たい本を下の方に置いて、全体を安定化する。各段には、本の出し入れの邪魔にならない位置にゴムやロープ、落下防止テープなどを貼るようにする。



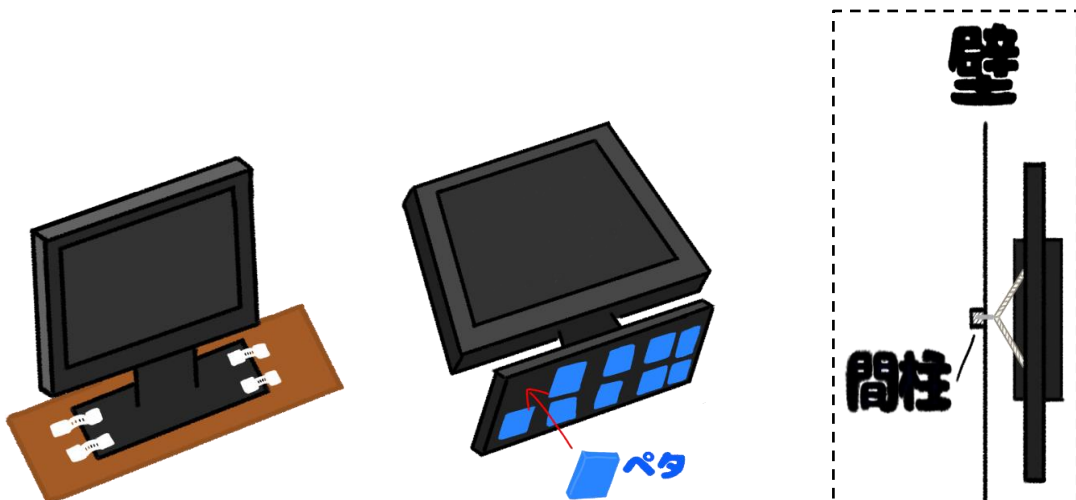
◆テーブルや椅子

床がフローリングの場合、テーブルやイスの位置に市販の耐震マットを敷くと効果的。カーペットや畳なら、脚の裏に滑り止めシートを貼り付ける。



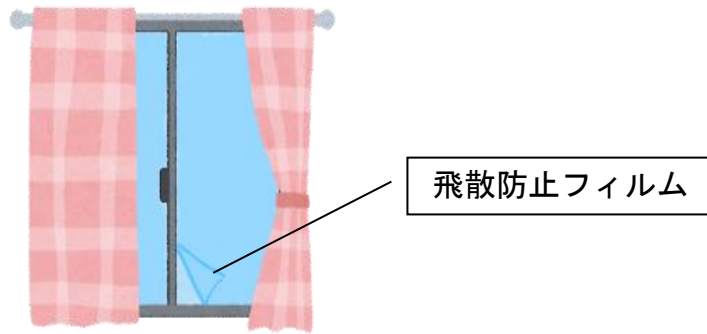
◆テレビなどの小型家電

- ・ストラップによりテレビ本体をテレビ台に固定する。なお、テレビの形状や重量に応じて本数を調整する。粘着マットを使うなら、取り付け面の凹凸に要注意。凹凸が大きいと粘着力が低下する。なお、テレビ台もL字金具などを用いて固定するのが良い。
- ・ボルトなどで壁面や専用台に固定するタイプのテレビは、取扱説明書の方法にしたがって取り付ける。もし、ロープとヒートンを使うなら、ヒートンは下地材(間柱)に取り付け、ロープも太いものにする。



◆窓・カーテン

窓ガラスには飛散防止フィルムを貼っておく。また、就寝時や外出時にはカーテンを閉めるようにする。



◆吊下げ式照明

天井にヒートンを打ち、鎖や頑丈なロープで補強する。交換時期には、壁や天井に直付けする固定式の照明も検討する。

